

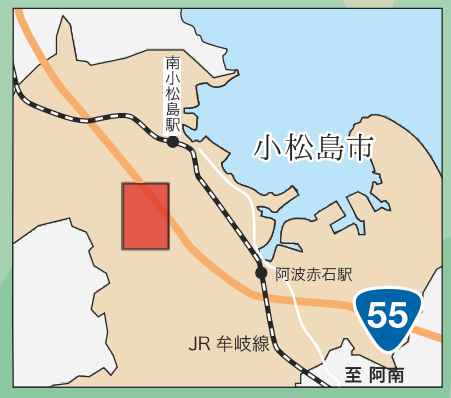
小松島おさんぽマップ

恩山寺お遍路ルート編



行程 徒歩 約 100 分

- ウォーキングルート
- 史跡ルート



- 👉 道標
- 🍴 お食事
- 🏠 丁石
- 🍜 ラーメン
- 🚰 バス停
- 🚽 WC お手洗い

200m

源氏橋

至 阿南

至 徳島

天馬石

和心処 紫乃

ゆ〜ちゃん
ラーメン

すたみな太郎
小松島店

芝生

B

恩山寺前

中務

恩山寺ビランジュ

C

D

恩山寺

WC

照蓮

F

弦巻坂・弦張坂

芝田小学校

田野

中務

G

照蓮

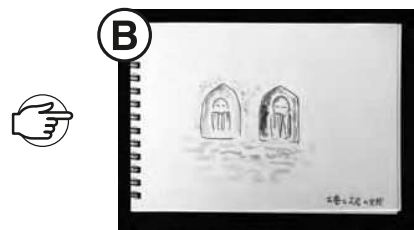
恩山寺 お遍路ルートのお話

四国八十八箇所霊場第十八番札所



A 旗山の義経騎馬像

恩山寺に近い旗山は源義経が白旗を掲げて士気を高めたとされている場所です。現在、この場所には騎馬像としては日本一の高さの義経の騎馬像があります。この場所を起点に恩山寺遍路道を歩いてみましょう。



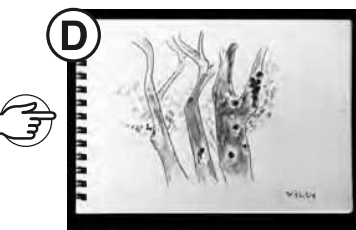
B お豊、お君の話

崖の中腹に2つのお墓があります。このお墓の言われはこの地方の貧しい家に後家に入った女の物語です。女には先妻の子お豊と実子のお君がいました。お豊を邪魔に思った女はお豊を崖から突き落とすことを計画します。しかしながら計画は失敗し、逆にお君が亡くなってしまいます。嘆き悲しんだ女は改心しますが、間もなくお豊も亡くなります。



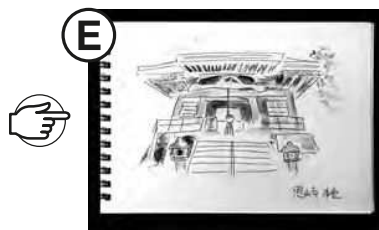
C 恩山寺山門

恩山寺に向かう史跡ルートはこの場所を通り抜けることとなります。弘法大師はこの山門近くの滝にうたれて17日間の秘法を修し、女人解禁の祈願を成就して母君を迎え入れたとされています。



D 恩山寺ピランジュ

弘法大師が女人解禁の祈念して植えたのがこのピランジュだと言われています。山門の隣に位置するこの樹は県天然記念物に指定されています。



E 恩山寺、本堂

第十八番札所で聖武天皇の勅願による行基の創建とも弘法大師の創建とも言われています。弘法大師の母とも関係深い寺として山号は母養山です。本堂は文政5年(1822年)の建立。寺域内には板碑や中世段階までさかのぼる五輪塔などの多くの石造物が残されています。



F 弦巻坂・弦張坂

第十九番札所立江寺へと向かうお遍路ルートであると同時に義経が進軍したとされている道でもあります。義経が配下に弦の弓を巻かせたり、張らせたりして進んでいったことから「弦巻坂」、「弦張坂」の名前が付いています。



G 釈迦庵・仏足石

恩山寺の年老いた僧が生活したお庵と言われています。県内では最古と言われる「仏足石」(市指定文化財)があります。以前は弘法大師がむつき(おむつ)を納めたことから「むつき堂」があったとされています。

歴史年表

人物	弘法大師		源義経		真念		照蓮		中務生島					
時代	飛鳥	奈良	平安	鎌倉	南北朝	室町	桃安山土	江戸	文化	文政	明治	大正	昭和	平成
西暦	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	1800	1900	2000

● 相輪塔、丁石、道標(みちしるべ)について



相輪塔

小松島の豪商「わたや」の生島(いくしま)氏が建立したものです。小松島市内の地藏寺にも生島氏に関わる建物が残っています。



丁石

丁(約100m)の距離を示したものです。恩山寺には四丁、二丁、一丁の丁石があります。

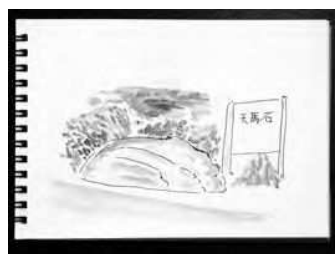


道標

主な道標として以下のものがあります。

- **真念(しんねん)**の道標 ※四国遍路の祖と言われる江戸時代前期のものです。小松島では櫛淵町に残っています。
- **照蓮(しょうれん)**の道標 文化期のものです。「四国中千躰大師」と刻まれています。
- **中務茂兵衛(なかつかさもへえ)**の道標 明治~大正のものです。22歳から78歳まで279回四国遍路を周り88回目から道標を建立したと言われています。
- **生島氏**の道標 明治以降のものです。小松島の豪商「わたや」の生島氏が建立したものです。

● お散歩ルート外の史跡について



天馬石

旗山のたもとにあるこの石は、天馬が天下って石になったとも名馬磨墨と宇治川先陣争いをした名馬池月が石に化したともいわれています。またこの石を踏むと腹痛を起こすといわれています。



弁慶の岩屋

古墳時代終末期の横穴式石室の古墳です。明治期には「大師の岩屋」とも言われていたようです。弁慶の岩屋と呼ばれ出したのは昭和に入ってからと伝えられています。

● 周辺にまつわる民話「田の久」

この地図の地方(田野町)では田の久という昔話が有名です。

田野地方出身、旅芸人の九兵衛という親孝行な旅役者の物語で、親の危篤を聞いて讃岐から阿波に帰る途中、大蛇に出会い、名前を聞かれます。そこで「たのきゅう」と答えたのですが、大蛇が「たぬき」と聞き間違えて、化け比べをすることになり、女形に化けた旅芸人の田の久が勝利します。その際、お互い一番怖いものを言い合ったのですが、田の久は「お金」と言い、大蛇は「煙草のやにと、柿のしぶ」と言いました。

田の久が村人にことのいきさつを話すと、大蛇を懲らしめようということになり、住処に煙草のやにと、柿のしぶを持っていきました。烈火のごとく怒った大蛇は田の久の家に大判、小判をザクザクと降らせました。その結果、田の久は大金持ちになりました。

(参考引用 小松島市ホームページ産業振興課 > たぬきの民話・伝説)

● 周辺の産直市「あいさい広場」



地図、右上面の国道55線をさらに阿南方面に行き、赤石トンネルを抜けてすぐ、小高い丘の上に四国最大級の産直市「みはらしの丘」あいさい広場があります。広く明るい店内に1年を通じて安全・安心な商品が多く取りそろえられています。(参考引用 JA 東とくしまホームページ)